教育

✉edu@asahi.com
日曜～火曜掲載

先生の勤務時間 アプリで記録

先生がスマホを持っていれば、学校に何時間いたか、残業は何時間だったかが自動的に記録される。そんな無料アプリを大学生らが開発した。「タイムカードは押さずに仕事をする先生もおり、アプリの方が客観的に記録できる」とメンバーは話す。

大学生ら開発 今春リリース

無料アプリは「Wormat（ウォーマット）」で、この4月にリリースする予定。教員免許を持つ埼玉大学院生の岡田隆さん（26）、東京学芸大の石原悠太さん（24）とその友人の大学生の3人が考案した。岡田さんと石原さんは教員の働き方を考える学生団体のメンバーでもある。

現場の先生の話を聞き、教員の超勤訴訟を支援するなかで、教員に労働時間の記録がなく、過労死しても公務災害としてはなかなか認められないことを知った。

先生たちに聞くと、タイムカードが普及しても押さずに仕事を続ける先生がおり、客観的な記録がされていない実態も浮かんだ。そこでICT（情報通信技術）に詳しい友人とともに、スマホの位置情報を利用したアプリを考えた。

自分の学校名を検索すると、画面にピンの立った地図が出てくる。そこで学校の大きさを半径100㍍などと入力。ピンを中心にした円に入って出るまでの時間を「在校時間」としてカウントできるようにした。

「残業時間」も計算でき、過去3月間の記録を保存してグラフにできるようにもした。アプリは、多くの先生にダウンロードしてもらいたくて無料にした。

自作の指導案とプリントを掲載して共有したり、他の指導案などを閲覧したりできるサイトLiberus（リベラス）」は、パソコンやタブレット、スマホで使えるようにし、こちらは有料。料金は月680円で検討している。「教育実習では指導案をネットで検索しないようにと言われたが、先行研究を調べないのはおかしいと思った」と石原さん。学年や教科、科目名、単元の名前を入れると検索できる。

埼玉大の高橋哲准教授（教育法学）らのコラムや、教員志望の学生の協力を得て、現場の先生にインタビューしたり、会員の知りたいテーマを取材したりするコーナーもある。

3人はサービスを提供する株式会社「EduCrew（エデュクルー）」を立ち上げる。「教育の海を航海している船の乗組員として学び合える場にしたい」と岡田さんは話す。

無料アプリの情報は、件名に「メーリングリスト追加」、本文に名前と都道府県名、職業を書いて「post@educrew.jp」に送信すれば、メールで受け取れる。（編集委員・氏岡真弓）

無料アプリ「Wormat」の画面（EduCrew提供）

タイムカードの代わり ■ 位置情報で客観的に

大学1年の生活充実度 著しく低下 生協連合会調べ

学生生活が充実していると感じるが、全国大学生活協同組合連合会による調査でわかった。新型コロナウイルスの感染防止で登校や課外活動が制限されるなか、特に1年生が翻弄されている状況が浮き彫りになった。

連合会が今月、全国30大学の1万1028人の回答をまとめ、発表した。調査は登校の状況やサークル、アルバイトなどについて尋ねる内容で、昨年10～11月にウェブ上で実施された。

大学生活が充実していると答えた学生の割合は、2019年の前回調査の88.8%と比べ、10㌫以上減って74.2%だった。学年別では1年生の減少幅が大きく、前回調査の89.3%から30㌫以上減り、56.5%と他の学年より圧倒的に少なかった。

充実度が下がった要因としては、授業がオンライン中心に切り替わったことが影響しているようだ。授業形態と充実度の関係をみると、オンラインが多いほど充実度が落ちる傾向となっている。

1年生の場合、すべてオンライン授業の学生で「充実している」と答えたのは、42.1%にとどまった。これに対し、すべて対面授業の学生では、78.0%が「充実している」と答えた。

1年生は勉強以外の課外活動も大きな制約を受けている。1年生のサークルの所属状況をみると、「所属している」が48.7%で、前回調査の82.8%から大幅に減った。「所属していないが、今後入るつもり」は前回調査では3.2%だったが、今回は36.5%だった。

連合会の担当者は「1年生への影響が群を抜いて大きい。大学は1年生を対象に、より丁寧なサポートをする必要があるのではないか」と話す。（土屋亮）

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたはＦＡＸ03・3542・4855へ。

いま 子どもたちは No.1730

学校でともに成長 6

黙々と読書が大好き…それでも

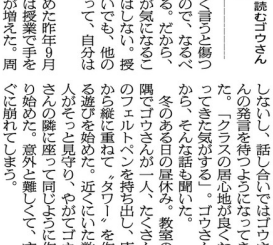
記者が継続的に取材してきた新潟市立浜浦小学校の5年2組。いつもはにぎやかな昼休みが、静まりかえる日がある。大半の子が教室の外に遊びに出て行った時だ。

閉散とした教室で、ゴウさん（10）が図書室で借りた本に目を落としていた。読書が大好きで、お気に入りは人気シリーズ「スッコケ三人組」。4回読んだ話もある。もともと口数が少なく、大きな声を出したり、走り回ったりするのはあまり好きじゃない。自由な時間があるなら、物語に浸頭していたい。その分、友達とかかわることはちょっと少なかだ。

そんな姿を見て、鬼ごっこをしようと誘ったクラスメートがいた。半分以上の子が体育館で、「メッコケ三人組」。4回読んだ話もある。もともと口数が少なく、大きな声を出したり、走り回ったりするのはあまり好きじゃない。自由な時間があるなら、物語に浸頭していたい。その分、友達とかかわることはちょっと少なかだ。

そんな姿を見て、鬼ごっこをしようと誘ったクラスメートがいた。半分以上の子が体育館で、お気に入りの人気シリーズ「スッコケ三人組」。4回読んだ話もある。もともと口数が少なく、大きな声を出したり、走り回ったりするのはあまり好きじゃない。自由な時間があるなら、物語に浸頭していたい。その分、友達とかかわることはちょっと少なかだ。

「本を読みたいからって、断ることは考えなかったの？」。記者が尋ねると、「言えなかった」とぽつり。「反発されたくないから」


休み時間に黙々と本を読むゴウさん＝新潟市立浜浦小学校

しないし、話し合いではゴウさんの発言を待つようになってきた。「クラスの居心地が良くなってきた気がする」。ゴウさん

冬のある日の昼休み。教室の隅でゴウさんが一人、たくさんのフェルトペンを持ち出し、床から紙に重ねて“メダル”を作る遊びを始めた。近くにいた数人がそっと見守り、やがてゴウさんの隣に座って同じように作り始めた。意外と難しくて、すぐに崩れてしまう。

笑い声が響いた。（高浜行人）

10代の君へ

ブレイディみかこ さん

ライター

誰かの一言で道が開けるかも

高校時代はずっと疎外感がありました。出身は福岡市です。藩校の流れをくむ名門高校に進みました。エリートっぽい雰囲気の同級生が多くてね。貧乏で家庭環境が複雑だった私は、浮いた存在だったと思います。

学校と決定的に衝突したのは高1の夏。禁止されているアルバイトがばれたのが、きっかけでした。放課後、定期代を稼ぐためにスーパーで働いていたんですが、担任に「今時、そんな貧しい家があるか。遊ぶなほしさだろう」と一蹴されました。

理不尽な対応が悔しくて、その晩、髪を短く切って金髪に染め、習目、その格好でわざと遅れて登校しました。担任への抗議のつもりでしたが、母親が学校に呼び出され、完全に「問題児」として扱われるようになりました。

行き場を失いかけていた私の2、3年の担任を引き受けてくれたのが、現代国語の先生です。嫌いな教科は勉強する気が起きず、試験用紙の裏に英国ロックやアナキズムの感想を書いて提出していた私を、なぜか先生だけは認めてくれたんです。

「たくさん本を読め、君は、ものを書く人になるといい」。落ちこぼれだった私に先生がかけてくれた一言を、いまも鮮明に覚えています。「物書き」という仕事を意識したのは、そのときが初めてでした。

私がまわり道をしながらもライターの仕事を続けられているのは、間違いなく先生の言葉があったからです。いまの10代のみなさんにも、そうした出会いを経験してもらいたい。信じられる人がまわりにいないとしたら、名作といわれる本や映画に触れてほしい。私は、入り浸っていた高校の図書館や大正期の活動家の著作を読み、「こんな奔放に生きた大人がいたんだ」と目を開かされました。

学生時代は社会への扉点が少なく、自分の可能性に気づけないかもしれません。でも、若いころに思っていた以上に世界は広く、多様な生き方を選べる。私はそう信じています。（聞き手・土屋亮）

オススメの映画

「いまを生きる」

アメリカ東部の名門高校を舞台に、かた破りな英語教師と生徒たちの交流を描きます。机の上に生徒を立たせ、違う視点で教室をながめさせるシーンが印象的です。

ぶれいでぃ・みかこ ライター。1965年、福岡市生まれ。日英を往復し、96年に英国に移住。貧困所で働く傍ら、ブログでの発信を続けてきた。著書に「ぼくはイエローホワイトで、ちょっとブルー」など。

将棋ニュース 名人戦 囲碁

最終戦へ A級昇級は永瀬か、木村か

井山裕太名人への挑戦権を争う第46期名人戦挑戦者決定リーグ戦（朝日新聞社主催）第3ラウンドは、ともに2戦全勝の一力遼天元と許家元八段の首位決戦があり、一力が制してアタマ一つ抜けだした。

一力と許の令和三羽ガラス対決は、序盤から短期決戦辞さずの激戦となり、一力が許の大石を仕留め、140手の短手数で決着。暫定ながら単独首位に立った。前期は7勝1敗ながら全勝の井山に屈し、挑戦権を逃したが、井山のいない今期は最有力候補に躍り出た。

一力の対抗馬として急浮上したのが平成四天王の羽根直樹九段だ。余正麒八段を相手に得意のシノギ勝負に持ち込み、開幕2連勝。一力とともに負けなしで走る。

予想外だったのが前名人の芝野虎丸王座の3連敗だ。山下敦弘九段との序盤の折衝で致命的な見損じを犯し、そのまま寄り切られた。3敗者の挑戦権獲得は過去45期のリーグ戦で1度しかない。井山へのリベンジ再戦は極めて厳しくなった。

安斎伸彰七段は河野臨九段を下し、初白星。序盤戦を終え、全敗者は芝野だけとなり、波乱の展開だ。（大出公二）

第79期将棋名人戦・順位戦（朝日新聞社、毎日新聞社主催）のB級からC級計4クラスの最終戦が、3月に行われる。昨年6月に開幕した昇級と残留を巡る熱い戦いが結末を迎える。

B級1組は、山崎隆之八段が既に昇級を決めている。もう1枠を争うのは、8勝3敗の永瀬拓矢王座と7勝4敗の木村一基九段。永瀬が勝てば、初のA級昇級が決まる。木村は自身が勝ち、永瀬が負けた場合のみA級復帰となる。降級は3人で、4勝8敗で最終戦が抜け番の丸山忠久九段は既に降級が決定。4勝7敗の阿久津主税八段、3勝8敗の行方尚史九段と深浦康市九段のうち、2人が降級する。

C級2組は、8勝1敗の黒田尭之五段の昇級が決定。9回戦目に顔合相手が負けて、吉報が届いた。自力で決められなかったのは残念だが、最終戦は昇級をかけた二番のもりで臨みたい。残る昇級枠は二つだ。

B級2組は藤井聡太二冠と佐々木勇気七段、C級1組では高崎一生七段と増田康宏六段が昇級を決めた。共に残り一つの昇級枠を巡って、最終戦を迎える。（村瀬信也）

◆毎月最終日曜日に、名人戦などの棋戦のニュースをお届けします。

第79期 名人戦

▲菅井竜也 ▲羽生善治 ▲佐藤康光 ▲豊島将之 ▲斎藤慎太郎 ▲渡辺明 ▲広瀬章人 ▲永瀬拓矢 ▲木村一基

△佐藤天彦 △羽生善治 △豊島将之 △佐藤康光 △斎藤慎太郎 △渡辺明 △広瀬章人 △永瀬拓矢 △木村一基

▲斎藤 歩

△斎藤 歩

（指了図・▲4七金まで）

持時間各6時間
消費 ▲3時間0分 △3時間39分

第32局第4譜（53―59）A級順位戦7回戦

先▲八段 △九段

斎藤慎太郎（5勝1敗）
佐藤 康光（3勝3敗）

2二角の頭を攻めていくと、後手は受けの構えだから、この手は止めることができないのだ。

後日に斎藤は▲5八金の構想は、佐藤康光九段が2009年の棋王戦本戦で指した手だ。相手に力強く金を繰り出していき、△5四歩を狙っての反発を誘発してしまう。

以上を踏まえたうえで斎藤が選んだのが▲5八金だった。自ら美濃囲の一角を崩すため意外に映るが、佐藤はこの手を見て「やられた」と思ったという。

▲5八金の狙いは▲4七金～▲3五歩から金を繰り出していき、△5四歩の